

第3回 鶴岡市中心市街地将来ビジョン・ 中心市街地活性化基本計画策定委員会

日時 令和6年2月8日(木) 13:30～
場所 鶴岡市役所 6階 大会議室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 報 告

(1) 中心市街地将来ビジョン中間案に関する意見聴取・意見募集の
経過と結果について

4 協 議

(1) 中心市街地将来ビジョン最終案について

(2) その他

5 そ の 他

(1) 今後のスケジュールについて

6 閉 会

中心市街地将来ビジョン・中心市街地活性化基本計画策定委員会 委員名簿

任期：委嘱日から令和7年3月31日まで

■日時：令和6年2月8日（火）13：30～

■場所：鶴岡市役所 6階 大会議室

《委員》

※敬称略

所属	役職	氏名	備考
(1) 中心市街地の活性化に関する法律第15条第1項に規定する者			
鶴岡商工会議所	会頭	上野 雅史	委員長
一般財団法人鶴岡市開発公社	理事長	阿部 真一	
特定非営利活動法人つるおかランド・バンク	理事長	廣瀬 大治	
(2) 経済、観光又は交通に関する者			
鶴岡TMO運営会議	委員長	國井 英夫	
鶴岡商店会連合会	会長	尾川 勝則	
一般社団法人DEGAM鶴岡ツーリズムビューロー	事業課係長	ミヨ サラ ラッシェル	欠席
公益社団法人鶴岡青年会議所	理事長	鈴木 俊将	
ANAあきんど株式会社庄内支店	ANA SHONAI BLUE Ambassador	佐藤 菜々子	
庄内コン実行委員会	代表	三浦 明弓	欠席
I n s i d e T s u r u o k a	代表	岡部 浩美	
(3) 歴史文化又は都市開発全般に関する専門知識を有する者			
公益財団法人致道博物館	理事・学芸部長	本間 豊	
一般社団法人山形県建設業協会鶴岡支部	支部長	五十嵐 久廣	
一般社団法人山形県建築士会鶴岡田川支部	まちづくり委員会 副委員長	鈴木 小枝	欠席

《オブザーバー》

※敬称略

所属	役職	氏名	備考
東北経済産業局	産業部商業・流通サービス産業課長	成田 早霧	
東北地方整備局	建政部都市・住宅整備課長	大泉 隆是	代理出席 渡辺 央
独立行政法人中小企業基盤整備機構	高度化事業部まちづくり推進室長	林 伸次	代理出席 安達 富夫
独立行政法人都市再生機構	東日本都市再生本部 まちづくり支援部部長	鈴木 孝弘	

《アドバイザー》

所属	役職	氏名	備考
早稲田大学	教授	矢口 哲也	

鶴岡市中心市街地将来ビジョン・中心市街地活性化基本計画策定委員会
事務局出席者名簿

所属	職名	氏名	備考
企画部	企画部長	上野 修	
商工観光部	商工観光部長	阿部 知弘	
建設部	建設部長	坂井 正則	
教育委員会	教育部長	永壽 祥司	
鶴岡商工会議所	専務理事	高橋 健彦	
政策企画課	政策企画課長	坂口 礼奈	
地域振興課	地域振興課長	菅原 青	
商工課	商工課長	齋藤 健一	
商工課	商工企画主幹	佐藤 志摩	
観光物産課	観光物産課長	観世 安司	
都市計画課	都市計画課長	五十嵐 泰彦	
管理課	管理課長	清野 健	
社会教育課	社会教育課長	沼沢 紀恵	
鶴岡商工会議所	経営支援課長	丸山 奈美	

(担当者)

所属	職名	氏名	備考
商工課	中小企業振興主査	本間 勝則	
商工課	主任	鈴木 春花	
都市計画課	管理主査	鈴木 崇	
都市計画課	都市計画係長	若生 真人	
都市計画課	都市計画専門員	菅原 崇	
都市計画課	専門員	阿部 純一	
鶴岡商工会議所	総務企画課 企画係長	五十嵐 展	
鶴岡商工会議所	経営指導員 主任	中村 映子	

	①賑わい	②居場所	③観光	④居住	⑤移動
★第2回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ★多くの市民が期待し、参加しているのは「食」のイベント ★都市経営の観点で集中投資する賑わい拠点等の場所を選定 	<ul style="list-style-type: none"> ★若い世代が中心市街地のことを考えていく機会を持つことがシビックプライド醸成につながる ★子どもたちの思い出を街の中に残すことが重要 	<ul style="list-style-type: none"> ★インバウンド誘致には全体の指揮者が必要 ★住民側のウエルカム感も大切 ★観光は、観るだけではなく食べることも重要な要素 ★どうやってお客様からお金を使ってもらうかが重要 ★観光客が気軽に立ち寄れる拠点整備が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ★こどもまんなかは方針・施策として具体的に盛り込むべき ★重点的な小規模区画再編の実施 ★居住誘導には、現状の小さく細い不利な区画を克服する取組が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ★人が外を歩いている状態を生み出すための公共交通 ★乗換拠点は賑わい拠点に配置
	<p>★わくわく感や期待値を高められるように ★人口減少しても、中心となる“へそ”の部分をつちりとつちりしておくことで将来の都市機能を維持</p> <p>★エリアマネジメントは、何とかしたいと思っている人（エリアマネージャー）を見つけて、応援していく、協力・支援していくといったまち全体でのサポートが必要</p> <p>★ありたいまちの将来の姿は、もっとシンプルに短い文章のほうが共通認識を得やすい（「食文化創造都市」「酒井家入部400年」「こどもまんなか」は施策に記載）（「中心市街地の魅力」は不要）</p> <p>★ありたいまちの将来の姿は、堅苦しくない鶴岡プライドが芽生えるようなもの、自分事として捉えられる表現にしてほしい</p> <p>★5つのカテゴリーの相互の関係性がわかるとよい ★中心市街地だけではなく、地域拠点の将来の生活像も提示してイメージしやすくする必要はある</p>				
<ul style="list-style-type: none"> ■中心商店街賑わい研究会 ◎第2回都市計画審議会 ▲第1回景観審議会 	<ul style="list-style-type: none"> ■人手不足が顕著、閉店する店舗の人材や設備を次につなぐ機会や商品のブラッシュアップ支援 ■個店が頑張ることで周辺に人が集まってくる流れを生み出す ■昔の賑わいを取り戻そうとするのは幻想、快適さや癒しの場などへの転換が必要 ◎食と農、学生や留学生、スマートテロワール構想により、まちづくりと連携 ▲銀座通りは歩行者空間整備の立地優位性がある 	<ul style="list-style-type: none"> ▲図書館などは立地のアイデアを市民に示してオープンに議論できるように進めてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ■インバウンド需要は鶴岡でも今後大きくなる ■QRコードを用いた観光地解説サービスの多言語化 ◎城下町らしい街路保全と住宅街としての快適性の両立 ◎歩いて楽しい、集って楽しいエリアを決めて、そこへの集中的な投資が必要 ▲現状のコンテンツを活かす視点も必要 	<ul style="list-style-type: none"> ◎空き家の有効活用 ◎人口密度の高め方はマンションだけではなく取組が必要 ▲人口減少しても暮らせることを考える必要がある ▲どういう住まい方・暮らし方ができるかを議論できるような具体的な内容を盛り込んでほしい ▲安心なまちに暮らしたいので防災の視点を加えてほしい ▲空き家の解決がビジョンの要 	<ul style="list-style-type: none"> ■市内循環バスは小型で狭い道路も通り便利になったので、より利用促進のPRが必要 ■レンタルサイクルをおしゃれにして、返却場所の複数設置 ■道路消雪など現在問題への解決 ▲観光客が移動しやすいことも重要 ▲ゆっくりとした速度で、まちなかの景色を楽しめる移動手段があるとよい ▲観光客向けの多様な移動手段が必要（eバイクの導入など）
<p>◎人口減少を踏まえていることを明記してほしい ◎これまで鶴岡市が取り組んできたコンパクトシティの概念を上位に</p> <p>◎「多極ネットワーク型まちづくり」の中心市街地と地域拠点の関係性を示してほしい</p> <p>▲機能による分類だけではなく鶴岡らしさを前面に出して、（空が広いこと、山当て景観など）取組例などももう少し具体的に記載することで議論が生まれる</p> <p>▲庄内地方のリーダー都市として地球環境の持続性（脱炭素、脱プラスチックなど）に関する視点を盛り込んでほしい ▲手選れにならないよう、ビジョンをつくりながら並行して行動を起こす</p> <p>▲ビジョン策定後もみんなの意見を聴く仕組みがあるとよい ▲15年後はスマートフォンが完全普及していると思われるなど、技術革新を想定して考えることが重要</p>					
<ul style="list-style-type: none"> ●展示へのコメント ◆こどもの意見 	<ul style="list-style-type: none"> ●市・行政内部でもそれぞれの立ち位置と考えを共有し、民間・市民との協働で取り組んでいくことが必要 ●若者のアイデアを実現する仕組みや支援 ●お店を開きたくなる雰囲気、ポップアップストアなどでのチャレンジングできる雰囲気 ●鶴岡の食を楽しむならここ、と紹介できるお店を ●資金調達をバックアップするなど民間のスピード感が必要 ●専門的なスキルがある人材登用 ●FOOD EVERの再考 ●空き店舗での起業への支援 ◆買い物を楽しみたい ◆商店街のアーケードは危険そうなので更新か撤去したほうがよい 	<ul style="list-style-type: none"> ●若い人から年配の方まで意見交換ができる場 ●若者と中高年層の交流を深め意見を尊重し合う ●図書館が入った施設の整備 ●未来を築いていく若者への支援 ●既存施設のPR ●みんながゆっくりできる場所 ●子どもが遊べる居場所がほしい ●市外通学生への配慮 ●今あるものを活用、使いやすくなるなど持続できるまちづくり ●図書館機能の利便性向上など中心部を良くすることで郊外部も良くなる取組を ●現役世代が必要なことよりも若者の意見を軸にする ●若者に目標を与える事で高齢者が暮らす環境が築かれていく 	<ul style="list-style-type: none"> ●旧内川の改修および川端通り沿い（鶴岡橋～山王通り入口の特に右岸側）の改良を検討してほしい ●観光PRの強化 ●観光ガイドの配置 ●歴史を踏まえた一貫性のある説明ができるまちづくり ◆もっと鶴岡の良さ、庄内や山形の良さを発信すべき 	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの視点で子どもの住みややすい街を ●交通利便性確保とコンビニや薬局などの気軽に生活必需品を揃えることのできるお店が近くにあること ●景観の維持 ●古く使われなくなった建物の撤去または改修 ●様々な人が暮らしやすいこと ◆家の近くからバスに乗って簡単に移動できて、広い図書館や遊べる場所が1か所にまとまっていること ◆街をきれいにすること、清掃が行き届いていること ◆ごみが少なくなるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民が率先して公共交通を利用しようとするまちづくり ●バスや電車の本数を増やす ●免許自主返納しても買い物や交通に不便でないこと ●働き盛りや若い世代もマイカーだけに頼らなくていい生き方を目指そうとするまちづくり ●中心市街地では車がなくとも生活できるようにしてほしい ●もっと歩行者や自転車利用者目線に住みやすい街づくり ◆歩道を広くして歩く人も自転車も安全に通れるように ◆公共交通の移動手段が充実していること ◆歩道、特に通学路の除草や除雪がよいこと

	①賑わい	②居場所	③観光	④居住	⑤移動
ありたいまちの将来の姿 (中間案)	食文化創造都市の利点を活かしつつ、魅力ある店舗が集まる空間で、賑わいを創り出すことができるまち	心地よい「居場所」があり、市民の学び・探求・創造性と交流を育むことができるまち	酒井家庄内入部400年の歴史文化からなる地域資源を磨き上げて「まち歩き」を楽しむことができるまち	こどもまんなかを支え、ライフステージに応じて、安心して快適に暮らし続けることができるまち	中心市街地の魅力に、誰もが、気軽に、移動・到達できるまち
まちづくりの方針 (中間案)	まちなかに、多彩な催しが行われ、“人中心”の賑わいと魅力のある通り・広場・店舗を生み出します。	まちなかに、勉強、習い事、趣味などの多様な目的で、気軽に滞在できる居心地の良い空間を生み出します。	まちなかに、地域資源を活用して歴史文化に触れられる「まち歩き」が楽しめる観光エリアを生み出します。	まちなかに、「住まう場所」として選ばれる、買い物・医療・福祉などの利便性が高い多様な居住空間を生み出します。	まちなかに、安全で快適な歩行者・自転車空間や、便利で安心な公共交通により、市民のお出かけを支えるアクセス環境を生み出します。

アンケートでは5つの項目に対して76.7~93.0%の共感を得ている（「とても共感する」「やや共感する」の計）一方で、わくわく感、用語の使い方、表現の仕方など、文言への工夫が必要との指摘をいただいている

	①賑わい	②居場所	③観光	④居住	⑤移動
ありたいまちの将来の姿 中間案への意見	★多くの市民が期待し、参加しているのは食のイベント	★こどもたちの思い出を街の中に残す	★観るだけではなく食べることも重要	★こどもまんなかは方針・施策として具体的に盛り込むほうがよい	★人が外を歩いている状態を生み出すための公共交通 ▲観光客が移動しやすいことも重要
	<p>★わくわく感や期待値を高められるように ★もっとシンプルに短い文章のほうが共通認識を得やすい（「食文化創造都市」「酒井家入部400年」「こどもまんなか」は施策に記載）（「中心市街地の魅力に」は不要） ★堅苦しくない鶴岡プライドが芽生えるようなもの、自分事として捉えられる表現にしていきたい ▲機能による分類だけではなく鶴岡らしさを前面に（空が広いこと、山当て景観など） ▲安心なまちに暮らしたいので防災の視点を加えてほしい ▲庄内地方のリーダー都市として地球環境の持続性（脱炭素、脱プラスチックなど）に関する視点を盛り込んでほしい ●用語がわかりづらい、子どもでもわかる表記にしてほしい ●若者や子どもが共感できるように、できるだけ行政っぽくならず、固くないほうがいい</p>				

「こどもまんなか」の居住環境づくりは 高齢者の暮らしやすさにも寄与



「こどもまんなかまちづくり」

出典：国土交通省都市局
令和6年度概算要求資料



「地域包括ケアシステム」

高齢者が、可能な限り、住み慣れた地域で自立した日常生活を営むことができるよう、医療・介護・介護予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制

出典：とやま地域包括ケアシステム

鶴岡市では、包括支援センターエリア（概ね中学校区）毎に、包括的な相談や支援体制を整備するとともに、住民同士の支え合いのある地域づくりを行い、誰もが安心して暮らし続けられる共生社会の実現を目指しています。

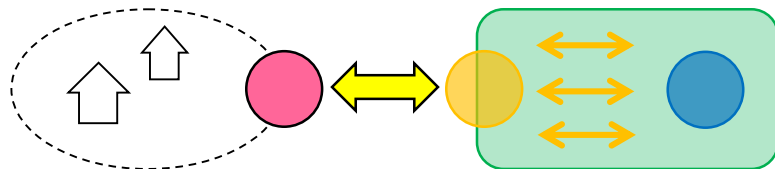
「多極ネットワーク型まちづくり」を目指す 持続可能な将来都市構造

【目指す価値】 暮らしの質の向上

概ね15年後のありたいまちの将来の姿

中心市街地・生活拠点・
地域拠点・小さな拠点な
どの集落をそれぞれコン
パクトに形成して地域公
共交通等で結ぶ「多極
ネットワーク型まちづく
り」を推進し、次世代に
引き継げる持続可能な都
市構造を構築

- 地域公共交通は、拠点での乗り換えを前提に、市街地ほど利便性が高まるネットワークを構築
- 安全、安心、安定な都市インフラとして市民に選ばれる移動手段へ



集落 < 地域拠点 << 生活拠点 <<< 居住誘導区域 <<<< 都市機能誘導区域

※「都市機能誘導区域」「居住誘導区域」：鶴岡市立地適正化計画（平成29年策定）設定区域



「わくわく」するビジョンへ

「わくわく」はオノマトペ（擬音語と擬態語の総称）

わくわく ≡ 心躍らせる = 期待 × 興奮

期待とは、将来それが実現するよう待ち構えること

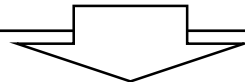
興奮とは、感情が高ぶること

	①賑わい	②居場所	③観光	④居住	⑤移動
最終案 ありたいまちの 将来の姿	「おいしい」 「たのしい」が できるまち	私のお気に入りの 場所を見つけ ることができる まち	城下の歴史や食 を巡る「まち歩 き」ができるま ち	広い空の下で安 心・快適に暮ら すことができる まち	気軽におでかけ できるまち
最終案 まちづくりの方針	まちなかに、食文化 創造都市ならではの 多彩な催しと、“ひ と中心”の魅力あふ れる通り・広場・店 舗を生み出します。	まちなかに、多様な 目的で滞在でき、学 び・探求・創造性と 交流を育む市民の拠 点を生み出します。	まちなかに、酒井家 庄内入部からの重層 的な地域資源等を活 用して一日中楽しめ る観光エリアを生み 出します。	まちなかに、良好な 景観を維持し、災害 に強く、多様なライ フスタイルやライフ ステージに応じた 「こどもまんなか」 と脱炭素の居住環境 を生み出します。	まちなかに、安全快 適な歩行者・自転車 空間や、便利な公共 交通等によるアクセ ス環境を生み出しま す。

ありたいまちの姿 最終案	①賑わい	②居場所	③観光	④居住	⑤移動
まちづくりの方針 最終案	「おいしい」「たのしい」ができるまち	私のお気に入りの場所を見つけることができるまち	城下の歴史や食を巡る「まち歩き」ができるまち	広い空の下で安心・快適に暮らすことができるまち	気軽におでかけできるまち
想定する取組例 最終案	<p>【主要な取組】 (修正)魅力的な企業・店舗等の進出を誘導するエリアマネジメント活動</p> <p>【関連項目】 ③観光 ⑤移動</p> <p>【連動する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 新規出店、事業承継、起業・創業への支援 ➢ (追加)通り・広場を会場とした通年イベントへの支援 	<p>【主要な取組】 新図書館の整備など、人がつながる場となる施設の整備</p> <p>【関連項目】 ①賑わい ⑤移動</p> <p>【連動する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 高校生等のアイデアによる居場所づくりの支援 	<p>【主要な取組】 鶴岡公園周辺の観光資源と商店街との回遊性を高める歩行者空間の整備</p> <p>【関連項目】 ①賑わい ⑤移動</p> <p>【連動する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 外国人等旅行者の受け入れ促進に向けた環境整備 ➢ 観光施設・個店への支援制度の充実 ➢ (追加)観光・食文化情報発信の強化 	<p>【主要な取組】 (修正)空き家・空き地の流動化により多様な住居の選択肢を提供する仕組の構築</p> <p>【関連項目】 ②居場所 ⑤移動</p> <p>【連動する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 狭あい道路解消を図る小規模区画再編等の推進 ➢ 高度地区規制の検証と事前明示性強化 ➢ (追加)住宅へのリフォーム支援拡充 ➢ (追加)再生可能エネルギー設備導入支援 	<p>【主要な取組】 (修正)市内循環バスを核とした公共交通の利用促進</p> <p>【関連項目】 ①賑わい ②居場所 ③観光 ④居住</p> <p>【連動する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ バス待合い所の高質化 ➢ 歩道と車道の分離化の促進 ➢ 交通結節点となる駐車場の集約整備・適正管理

理想
理念

- 中心市街地将来ビジョンは、市民・事業者・行政が「ありたいまちの将来の姿」について共通認識を持ち、都市経営の課題達成に連携して取り組むため、策定するものです。
- 「ありたいまちの将来の姿」の5つのカテゴリーに共通することは、中心市街地での明るい未来、中心市街地への肯定感、自分がまちに関わっていると感じる自負や誇りを抱くことができることへのわくわく感（期待と興奮）です。
- キャッチフレーズには、今はできないことが多いけれども、できることを生み出していく、自分のまちを自慢できる、自分事としてまちに関わることができるといった想いを込めています。

事務局
案

できる うみだす あなたのまちなか

使い
方

- このキャッチフレーズは、ビジョンの周知活動においてSNS等で、ハッシュタグを付け「#できる うみだす あなたのまちなか」として展開します。
- キャッチフレーズを基にロゴを作成し、各事業の実施に当たっては、必ず表示・案内等に盛り込むことで、中心市街地のあちこちで目にすることができるようにします。
- キャッチフレーズとロゴは、公共事業はもとより、中心市街地での民間事業・イベント等での積極的な使用を促していきます。

キャッチ
フレーズ
検討の
要件
(参考)

- 伝えたい相手 : 市民（特に、子どもから高校生世代）、事業者
抱いてほしいイメージ : 中心市街地での明るい未来
中心市街地への肯定感（良いところだ、魅力がある、おすすめしたい）
自分がまちに関わっていると感じる自負と誇り（シビックプライド）
中心市街地でのビジネスチャンス・投資意欲
- 内容 : 「ありたいまちの将来の姿」と連動していること
鶴岡市（の中心市街地）を指していると気づく・連想しやすいこと
- 文字数 : 15字程度

背景

中心市街地・地域拠点・小さな拠点をそれぞれコンパクトに形成して地域公共交通等で結ぶ「多極ネットワーク型まちづくり」を推進し、次世代に引き継げる持続可能な都市構造を構築していく必要がある

ビジョン策定の目的

市民・事業者・行政が「ありたいまちの将来の姿」について**共通認識**を持ち、都市経営の課題達成に連携して取り組むため

中心市街地の重要性と活性化の意義

- 経済・サービスを生み出す都市部と、農林業・水産業の基盤ともなっている郊外部は相互に支えあっている関係にあり両立が必須
- 歴史的経緯からも中心市街地は広大な市域の中枢をなすエリアであり、人口密度を高めて公共・民間それぞれの機能を維持・拡充していくことが重要

市民や事業者の声をベースに設定

市民ワークショップ

民間事業者ヒアリング

アンケート調査

できる うみだす あなたのまちなか

フレイッシュ

ありたいまちの姿

まちづくりの方針

想定する取組例

①賑わい

「おいしい」「たのしい」ができるまち

まちなかに、食文化創造都市ならではの多彩な催しと、“ひと中心”の魅力あふれる通り・広場・店舗を生み出します。

【主要な取組】

魅力的な企業・店舗等の進出を誘導するエリアマネジメント活動

②居場所

私のお気に入りの場所を見つけることができるまち

まちなかに、多様な目的で滞在でき、学び・探求・創造性と交流を育む市民の拠点を生み出します。

【主要な取組】

新図書館の整備など、人がつながる場となる施設の整備

③観光

城下の歴史や食を巡る「まち歩き」ができるまち

まちなかに、酒井家庄内入部からの重層的な地域資源等を活用して一日中楽しめる観光エリアを生み出します。

【主要な取組】

鶴岡公園周辺の観光資源と商店街との回遊性を高める歩行者空間の整備

④居住

広い空の下で安心・快適に暮らすことができるまち

まちなかに、良好な景観を維持し、災害に強く、多様なライフスタイルやライフステージに応じた「こどもまんなか」と脱炭素の居住環境を生み出します。

【主要な取組】

空き家・空き地の流動化により多様な住居の選択肢を提供する仕組みの構築

⑤移動

気軽におでかけできるまち

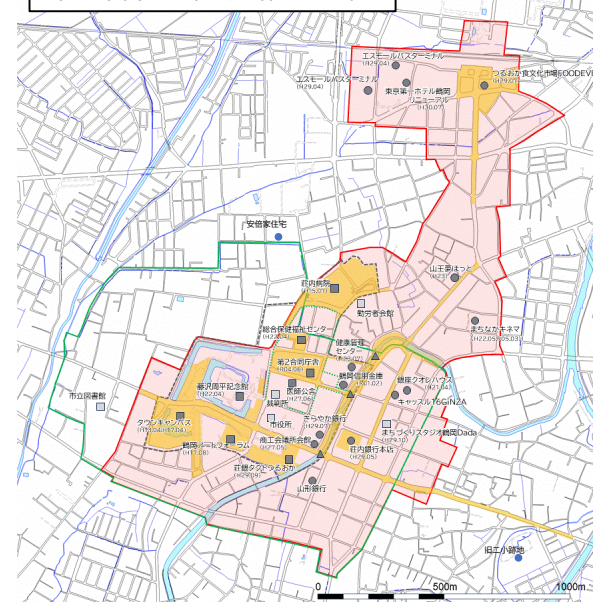
まちなかに、安全快適な歩行者・自転車空間や、便利な公共交通等によるアクセス環境を生み出します。

【主要な取組】

市内循環バスを核とした公共交通の利用促進

概ね15年後のありたいまちの将来の姿を描く

中心市街地の区域（約150ha）



第3期中心市街地活性化基本計画の策定

- ビジョンに基づき、令和7年度から令和11年度の5年間で優先的に取り組むべきハード・ソフト事業の内容と実施主体、成果指標と行動目標等を設定する第3期中心市街地活性化基本計画を策定（令和6年度策定予定）
- 併せて、ビジョンで設定した「ありたいまちの将来の姿」について、市民・事業者・行政の共通認識の醸成に向けた周知促進を展開

1. 委員会設置目的

本市中心市街地における今後のまちづくりの方針を協議するため、鶴岡市中心市街地将来ビジョン・中心市街地活性化基本計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

2. 所掌事務

委員会は、中心市街地将来ビジョンの策定及び中心市街地活性化基本計画の策定に係る事項を協議する。

3. 開催日程と議題

中心市街地将来ビジョン策定 (R5)

第1回
(R5.7.11)

・骨子案の協議

市民対話WS・中間案の展示

第2回
(R5.12.19)

・中間案の協議

民間事業者ヒアリング

データ分析

社会実験(駅前地区・まちなか広場)

第3回
(R6.2.8)

・最終案の協議

パブリック・コメント

・原案作成
・内閣府
事前相談

中心市街地活性化基本計画策定 (R6)

第4回
(R6.6)

・素案の協議

国（内閣府）との手続き等

概要提出

ヒアリング

第5回
(R6.8)

・計画案の協議

素案提出

現地調査

第6回
(R6.10)

・最終計画案の協議

パブリック・コメント

計画案提出

認定申請